

ACCESS[®]

インバーター発電機
AQ3300ig

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

保証書付き

AQCCCESSの発電機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ございます。

お買い上げいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、
ご意見などがございましたら、お買い上げ販売店にお気軽にお申し付けください。

取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・ 運転をするときには、必ず携帯してください。
- ・ 発電機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡してください。
- ・ 紛失や損傷したときは、お買い上げ販売店にご注文下さい。

■はじめに

AQCESS発電機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、安全にお使いいただきますようお願い致します。

- ・当社の許可なく、取扱説明書の内容の全部または一部を複製、改修および無断での転載等は禁止されています。
- ・安全上の注意や製品仕様等は、予告なく変更される場合があります。その為、お客様が購入された製品と、取扱説明書に記載された内容が異なる場合がありますので、ご了承ください。

安全上のご注意

必ずお守りください

この取扱説明書及び本製品に貼ってあるラベルは、安全に関わる重要な注意事項を警告・注意のマークを使用し表現しています。

本製品を安全にお使いいただき、使用者及び周囲への危害や財産への損害を、未然に防ぐ為のものですので、必ずお守りください。

本製品を使用する前に、この取扱説明書に記載されている各項目を良く読み、理解し、厳守してください。取扱説明書を無くしたり、汚したりせず、使用者が必要に応じて読むことが出来るよう大切に保管してください。

警告・警告事項の意に反して安全義務を怠ったり、規定外の使用による機器の破損や怪我等に関しては、当社では一切の責任を負いかねますのでご了承ください。



警告

この表示内容を見逃し、誤った使い方をしますと、死亡事故や怪我等の重大な傷害に結びつく可能性があります。

- ・必ず取扱説明書を読み、本製品の使用方法をよく理解してからご使用してください。
- ・本製品の分解・改造はしないでください。
- ・排気ガスには、有害な成分が含まれていますので、使用中は必ず換気をし、使用場所の換気を良くしてください。
- ・使用中、使用後はマフラー部及び周辺部が非常に熱くなりますので、絶対に触れないでください。ヤケドやケガの原因になります。
- ・燃料は引火しやすく、気化した燃料は爆発する恐れがあるため、燃料給油の際は、必ずエンジンを停止し通気の良い場所で行ってください。
- ・給油中は喫煙・火気厳禁です。火災や爆発の原因になります。また、静電気が発生しないよう十分注意してください。
- ・給油中に燃料がこぼれた場合は、きれいに燃料を拭きとり、完全に乾かしてからエンジンを始動させてください。
- ・万が一、燃料が目に入ったり、皮膚に付着したりした場合は、速やかに清潔な水で洗い流してください。

- ・濡れた手で触らないでください。感電の原因になります。
- ・電力会社からの電気配線には、絶対に接続しないでください。故障、火災、感電事故の原因になります。
- ・誤った使用方法により、商品が破損・人体への損傷・物品等への損害が生じた場合、一切の保証、並びに責務は無効となります。
- ・医療機器への仕様に関しましては必ず事前に医療機器メーカー、医師、病院などに確認をしてから使用してください。
- ・本製品はAC出力電源50/60Hzの切り替えが可能となっていますので使用機器、もしくは使用する地域の周波数（東日本50Hz、西日本60Hz）に合わせて切り替えてください。間違った周波数で使用しますと、機器の動作不良、故障などにつながる恐れがありますので、使用機器の説明書などで仕様をよく確認してから周波数を設定してください。
- ・初めての始動時、もしくは一度燃料を抜いた状態からの始動時はエンジンのキャブレター内に十分な燃料が供給されていないため、スターターを数回引かないと始動しません。燃料タンク内に十分に燃料が入っていることを確認の上、始動するまでスターターを繰り返し引くようにしてください。（始動しない場合は本書の「エンジン始動」の部分をよく読み、各種スイッチ類の位置及びオイルや燃料の量などを確認してください。）
- ・本製品を鉄板、コンクリートフロアなどの平滑な場所に置いて使用する場合、発電機自身の振動により本製品が移動することがあります。その場合、転倒や滑落の危険性があるのでストッパーなどを使って発電機の移動防止策を行ってください。

注意

この表示内容を見逃し、誤った使い方をしますと、人的障害及び製品の故障やその他物的損害に結びつく可能性があります。

- ・使用前に、毎回必ず各部の点検を行ってください。（始動前点検参照。）
- ・本製品を平坦で固い床面に設置し、建物や壁から1 m以上離してください。
- ・本製品を傾けますと、キャブレター、燃料タンクより燃料が漏れる恐れがありますので、必ず本製品を垂直に保つように設置してください。
- ・エンジン始動中は、本製品を移動させないでください。
- ・エンジン始動中は、子供や幼児の手の届くところでは使用しないでください。
- ・使用中に異音、異臭、振動等の異常が感じられた場合は、直ちにエンジンを停止させ、販売店までご連絡ください。
- ・定格出力を超えた過負荷状態では、絶対に使用しないでください。故障や火災等の原因になります。
- ・エンジン始動前に、電気機器を接続しないでください。感電やケガの恐れがあります。
- ・必ず、4サイクルエンジンオイル及び、自動車用レギュラーガソリンを使用してください。
- ・運搬の際は、必ず2人以上で運んでください。

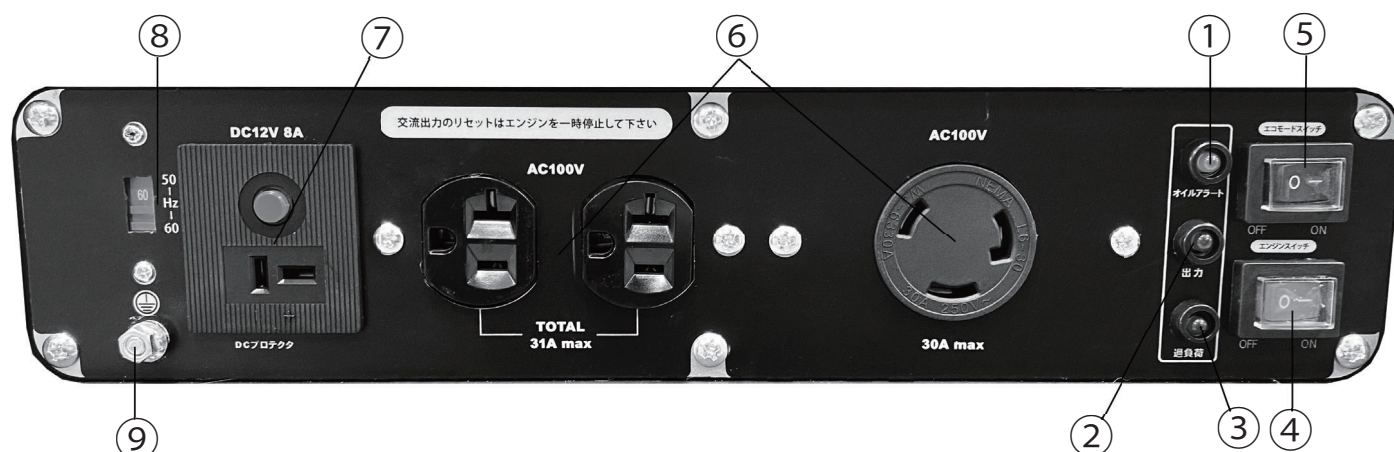
各部名称

■外観



No.	部位名称	No.	部位名称
1	フレーム	7	エアフィルター
2	燃料タンクキャップ	8	エンジンスイッチ
3	燃料計	9	リコイルスターター
4	コントロールパネル	10	クッションラバー
5	チョークレバー	11	オイルプラグ
6	燃料コック		

■コントロールパネル



①オイルアラートランプ(黄)	エンジンオイルの量が規定以下になるとオイルアラートランプが黄色に点灯してエンジンを自動停止します。エンジンオイルを規定量以上補給するまでエンジンは始動しません。
②出力インジケータランプ(緑)	出力インジケータランプはエンジンが始動し電力の供給が開始されると緑色に点灯します。
③過負荷インジケータランプ(赤)	発電機が過負荷状態になると過負荷インジケータランプが点灯し、発電機は電力の供給を停止します。 電気機器を取り外して発電機を再始動し、発電機への負荷を減らしてください。 ※起動電力の大きい電気機器を使用した場合、過負荷インジケータランプが数秒間点灯することがありますがこれは故障ではありません。
④エンジンスイッチ(赤)	エンジンスイッチをONにするとエンジンは始動でき、OFFにするとエンジンは始動できません。
⑤エコモードスイッチ(黒)	エコモードスイッチをONにすると125V以上の出力時に負荷に応じてエンジン回転数を制御し燃料の消費を軽減します。 ※本製品では100Vの出力のため機能しません。
⑥AC電源コンセント	15Aのコンセントを2口、丸型30Aのコンセントを1口装備しています。複数のコンセントを同時に使用することが出来ます。
⑦DC電源コンセント	付属のバッテリーチャージングケーブルを接続して開放型バッテリーを充電することができます。AC電源コンセント使用時でもDC電源コンセントは使用することが出来ます。
⑧周波数切替スイッチ	スイッチを切り替える事で発電機の周波数を50Hz、または60Hzに切り替えることが出来ます。
⑨アース端子	感電を防止するために発電機のアースターミナルにアース線を取り付けて使用してください。

■インジケーター

①オイルアラートランプ(黄)

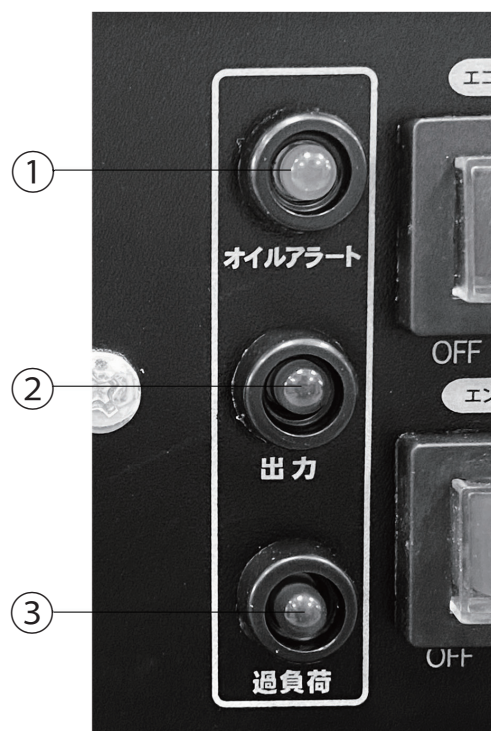
エンジンオイル残量が少なくなると、オイルアラートランプ(黄)が点灯します。エンジンオイル量については次のページ以降の「始動前点検」、「エンジンオイル量」を参照してください。

②出力インジケーターランプ(緑)

発電機が発電しているときは、出力インジケーターランプ(緑)が点灯します。

③過負荷インジケーターランプ(赤)

接続された機器に過負荷やショートがあると、過負荷表示(赤)が点灯します。この場合は、次のように対処してください。



過負荷インジケーターランプ(赤)が点灯したら

1. 接続されている電気機器の電源を切り、エンジンを停止します。
2. 接続されている電気機器の総ワット数を本製品の定格以内にします。
3. 確認後、エンジンを再起動します。

⚠ モーターを使用する電気機器など、大きな始動電流が必要な電気機器は消費電力の4倍程度の電力が必要となる場合があります。そのため、最初に過負荷インジケーターランプが数秒間点灯する事があります。

⚠ 本製品の定格出力は3.1Kw (3100w) です。

始動前点検

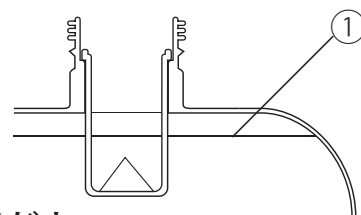
安全に使用する目的と、発電機の故障と事故を未然に防ぐため、必ず以下の点検作業を使用前に実施してください。

⚠ 警告

- ・点検する際は、必ずエンジンが停止している状態で行ってください。

■ 燃料計の点検

1. 燃料計で燃料が十分入っているか確認をしてください。燃料が少ない場合は以下の手順に沿って燃料を充填してください。
2. 燃料キャップを開けてください。
3. 燃料計を見ながら、燃料タンク(最大13L)にゆっくりと燃料を入れてください。
この時に、燃料タンクに燃料を入れ過ぎないように注意してください。
標準的な無鉛ガソリンの仕様を推奨します。
4. 燃料キャップをしっかりと締めてください。



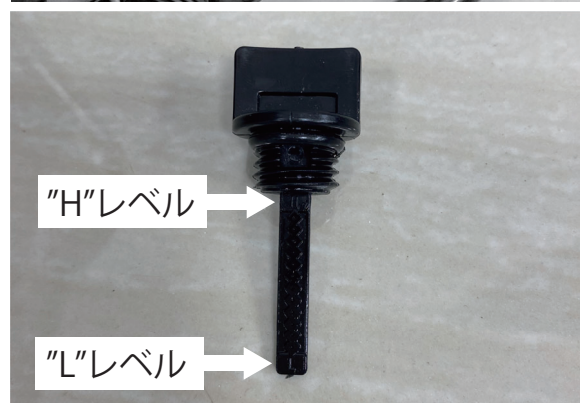
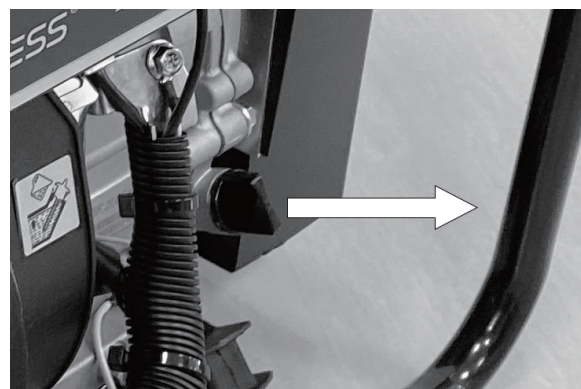
- ⚠ ガソリンの充填量は、右図①程度までです。燃料は膨張する場合があるためタンク内に1cm以上の空間が開くようにしてください。

⚠ 警告

- ・燃料は引火しやすく、気化した燃料は爆発する恐れがあるため、燃料給油の際は、必ずエンジンを停止し通気の良い場所で行ってください。
- ・給油中は喫煙・火気厳禁です。火災や爆発の原因になります。
また、静電気が発生しないよう十分注意してください。
- ・給油中に発電機本体及びマフラー部に燃料をこぼさないように注意してください。
こぼれてしまった場合は、きれいに燃料を拭きとり、完全に乾かしてからエンジンを始動させてください。
- ・万が一、燃料が目に入ったり、皮膚に付着したりした場合は、速やかに清潔な水で洗い流してください。
- ・燃料は子供の手の届かないところに保管をしてください。

■エンジンオイル量の点検

1. オイルプラグを反時計回りに回して、発電機本体から取り外します。
2. きれいな布でオイルプラグを拭きます。
3. 発電機本体にオイルプラグを戻してから、再び取り外します。この際、発電機本体に無理にねじ込まないでください。
4. オイル量がオイルプラグの“H”レベル以下の場合は“H”レベルまでオイルを充填してください。
オイルがオイルプラグのねじ山に達するまで充填してください。
※オイルの容量は0.47Lです。
※この発電機にはSEレベル以上のオイルの使用を推奨します。
5. オイルプラグを元に戻します。



⚠ 本発電機はエンジンオイルなしで出荷されています。
エンジンオイルを充填するまでエンジンを始動させないでください。

⚠ 警告

- この確認を行うには、エンジンのスイッチを切った状態で、発電機を平らな場所に置いてください。
- オイルレベルを確認するときは、発電機の熱い部分に触れないようにしてください。

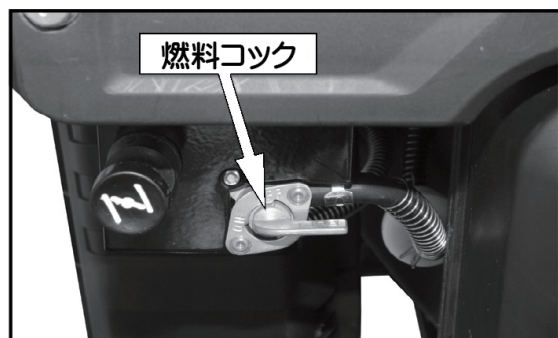
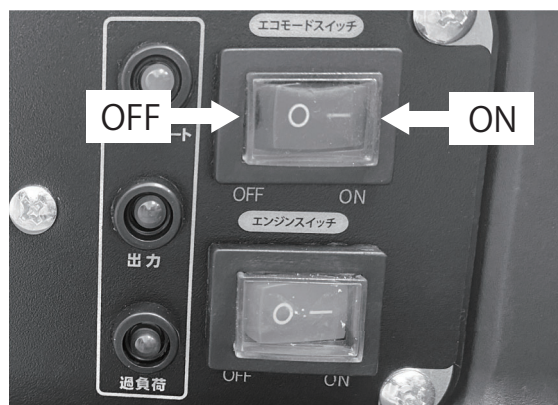
■各部位の点検

- 発電機からのオイル漏れがないかを点検してください。
- タンク、ホース、キャブレター等からの燃料漏れがないか点検してください。
- リコイルスターターの作動状態は良好かロープに損傷は無いか点検してください。
- ネジ類の緩みがないか点検してください。
- 各スイッチ、コンセントに損傷がないか点検してください。
- エンジンの始動性、異音、排気の状態は良好か点検してください。
- チョークレバーの作動状態は良好か点検してください。

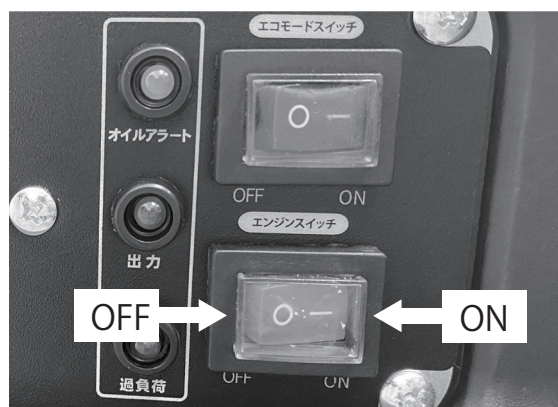
使用方法

■エンジンの始動

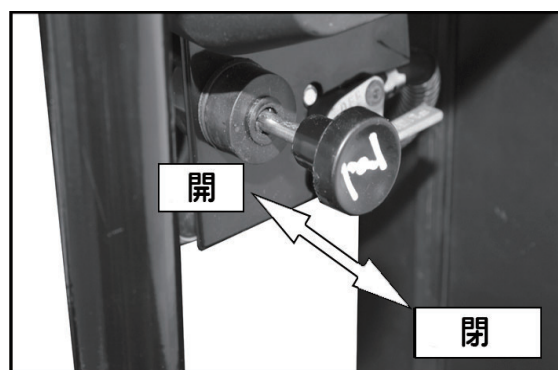
1. 発電機に接続している電気機器をすべて取り外します。
2. エコモードスイッチ (黒) とエンジンスイッチ (赤) を「OFF」にします。
※エコモードスイッチは機能しません。
3. 燃料コックを右図のようにし「ON」にします。



4. エンジンスイッチ (赤) を「ON」にします。



5. チョークバーを始動の位置「閉」まで引きます。
※エンジンが温まっている場合は必要ありません。
6. 発電機を安定させ、抵抗を感じ始めるまでリコイルスターターを軽く引きます。
その後、強く引いてエンジンを始動させます。
※この作業は複数回行う必要があります。



7. エンジンが始動したら、チョークレバーを運転位置「開」に戻します。

⚠ 警告

- リコイルスターターを引っ張るときに発電機が転倒しないように、フレームをしっかりと掴んでください。
- 発電機が始動したら、反動による怪我や損傷を避けるため、リコイルスターターをゆっくりと放してください。

■電気機器の接続

1. 「■エンジンの始動」の手順でエンジンを始動します。
2. 使用する電気機器の合計負荷が発電機規格出力内であることを確認してください。
3. 使用する電気機器の電源が切れている事を確認して発電機に接続してください。
4. 出力インジケータランプが点灯していることを確認します。
5. 電気機器の電源を入れます。



⚠ 警告

3枚目の写真のアダプターを使ってプラグ側の配線作業をするには専門の知識が必要です。配線作業は専門の電気業者に相談してください。



- ⚠ 発電機を使用する場合、接続する電気機器の総負荷が発電機の定格出力内にあることを確認してください。発電機の定格出力を超えた電気機器を使用すると、発電機が損傷します。
- ⚠ 15Aを超える機器をご使用の際は丸型30Aのコンセントをご使用ください。
- ⚠ 過負荷インジケータランプは、総ワット数が適用範囲を超えたときに点灯します。
- ⚠ 接続する機器が正常に動作していることを確認してください。異常な動作を始めた、突然停止したりした場合は、発電機から取り外してください。
- ⚠ モーターを含む機器など、誘導負荷を含む機器は起動時に多くの電流を必要とする場合があります。

■DC電源(カーバッテリーの充電のみ)

⚠ 警告

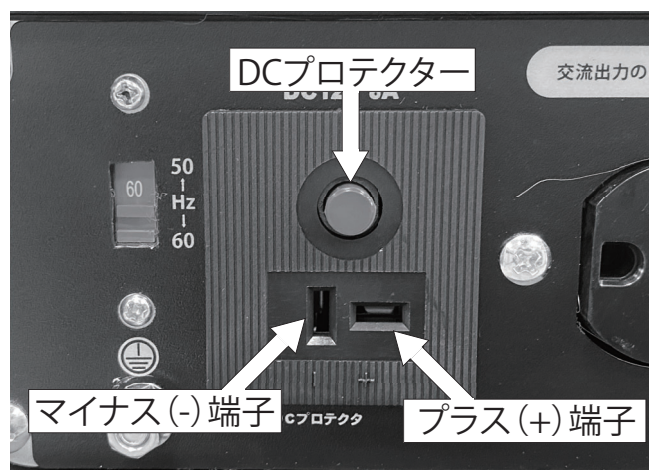
- ・お客様の安全のために、以下の指示を示された順序で実行してください。
- ・この発電機は、バッテリーの「補充」にのみご使用ください。完全な充電をしますと、ヒューズが切れる恐れがあります。

1. 「■エンジンの始動」の手順でエンジンを始動します。
2. バッテリーの充電用リード線をバッテリーに接続します。
3. 赤いワイヤーをプラス(+)端子に、黒いワイヤーをマイナス(-)端子に取り付けてください。
4. バッテリー充電用リード線を発電機に接続します。
5. バッテリーが充電を開始します。
6. 充電中は定期的にバッテリーの電圧を監視し、電圧が14.4ボルトに達したら、バッテリーを外してください。
7. 充電中は端子同士を接触させないでください。

⚠ バッテリーを外すときは、必ず黒いマイナス(-)のリード線を先に外してください。

■DCプロテクター

発電機が過負荷状態になるとDCプロテクターが作動し、発電機は電力の供給を停止します。DCプロテクターが作動した場合、電気機器を取り外した後、数分待ってから右図のDCプロテクターボタンを押して発電機を再始動してください。



■エンジンの停止

1. エコモードスイッチ(黒)を「OFF」にします。
2. 接続しているすべての電気機器の電源を切り、取り外します。
3. エンジンスイッチ(赤)を「OFF」にします。
4. 燃料コックを【 I 】「OFF」にします。

⚠ 緊急時に発電機を停止するには、エンジンスイッチ(赤)を「OFF」にしてください。

運搬・保管

■ガソリンの抜き方

1. 燃料コックを【 I 】「OFF」にします。
2. エンジンスイッチ (赤) を「OFF」にします
3. ガソリントankキャップを取り外します。
4. 市販の給油ポンプ等を使用し、ガソリントank内のガソリンを抜き取り、別容器に移します。
5. 燃料コックを【 — 】「ON」にします。
6. エンジンスイッチ (赤) を「ON」にします。
7. リコイルスターターでエンジンを始動させます。
8. ガソリンを使い切ってエンジンが自動で停止するまで運転を続けます。
9. キャブレターのドレンスクリューを緩め、ガソリンを抜き取り、別容器に移します。
10. 完全にガソリンが抜けたら燃料コックを【 I 】「OFF」にします。
11. キャブレターのドレンスクリューを締め付けます。

警告

- ・ 作業中は火気厳禁です。火災や爆発の原因になります。また、静電気が発生しないように十分注意してください。
- ・ 容器は必ず耐ガソリン製の物を使用してください。

■運搬 (※ガソリンの抜き方項目参照)

「■ガソリンの抜き方」の4.まで行い、ガソリントank内のガソリンを抜いてから運搬するようにしてください。

本製品を自動車等で運搬をする場合は、走行中の振動や衝撃等で燃料がこぼれる恐れがあるので、燃料tank内のガソリンをすべて抜いてから運搬してください。

警告

ガソリンは気化して引火する恐れがある為、車内等に積載したまま長時間放置をしないでください。

■保管 (※ガソリンの抜き方項目参照)

長期間使用しない場合は、ガソリンの抜き方項目を最後まで行ってください。

本発電機にカバー等を掛けて、室内で湿気が少なく換気の良い場所で保管してください。

 燃料が自然劣化し、エンジン始動が困難になる場合があるので、長期間使用しない場合は、必ず燃料を全て抜いてから保管してください。

定期点検

■点検・交換目安

	使用前点検 (毎回点検)	1ヶ月又は 20時間運転	3ヶ月又は 50時間運転	6ヶ月又は 100時間運転	1年又は 300時間運転
エンジンオイル	点 検	交 換 ※初回運転時		交 換	交 換
エアフィルター	点検・清掃				
スパークプラグ				点 検 清掃・調整	交 換
燃料タンク			点検・清掃		
燃料タンク フィルター	点 検	清 掃			

⚠ ホコリ等が多い場所で使用した場合は、エアフィルターの清掃は10時間運転、または、1日1回行ってください。

⚠ 表示時間・期間が経過したら、速やかに点検・交換を行ってください。

⚠ 点検・交換の目安は、期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で行ってください。

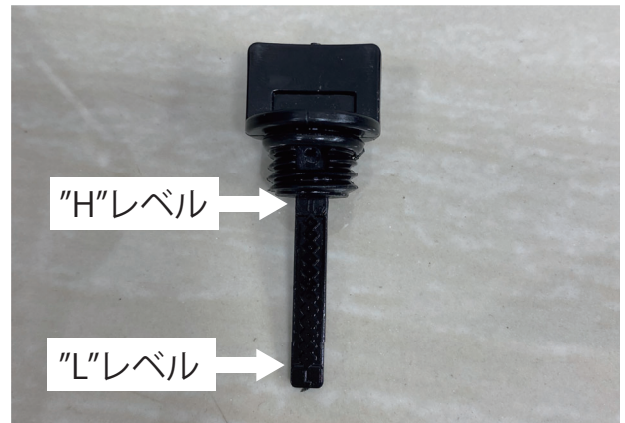
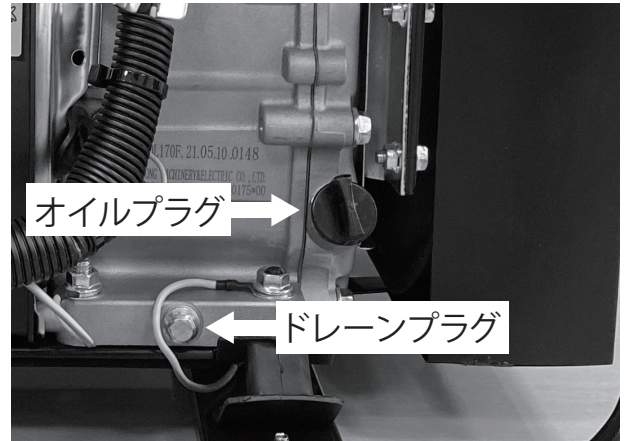
⚠ 点検時に、異音、異臭、振動等の以上が感じられた場合は、直ちに点検作業を中止し、販売店までご連絡ください。

環境保護

最も有害な汚染源のひとつがオイルです。使用済みのエンジンオイルを家庭ごみと一緒に捨てたり、排水溝やシンクに流したりしないでください。漏れない容器に入れて、地元の廃棄物処理場で廃棄をしてください。

■エンジンオイルの交換

1. オイルプラグを反時計回りに回して、発電機本体から取り外します。
2. ドレインプラグの下にオイル回収トレイを置きます。
3. ドレインプラグを外し、発電機内部の使用済みエンジンオイルを回収トレイに抜きます。
※エンジンオイルの排出は、エンジンが温かいうちに行ってください。
オイルの排出が早くなります。
4. ドレインプラグを取り付けます。
5. 発電機内部にエンジンオイルを入れます。
6. エンジンオイルがオイルプラグの“H”レベルに達するまで充填してください。
7. オイルの容量は0.47Lです。この発電機にはSEレベル以上のオイルの使用を推奨します。
8. オイルプラグを発電機本体に取り付けます。

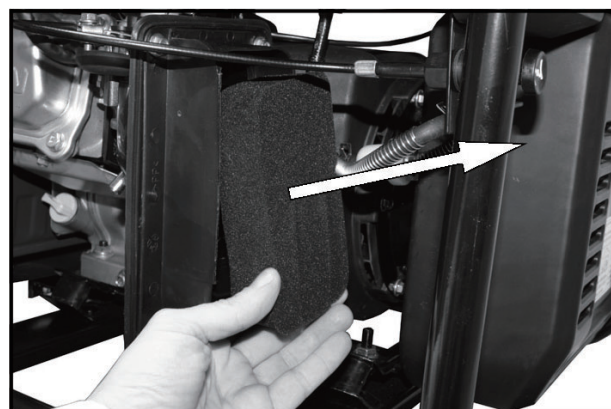
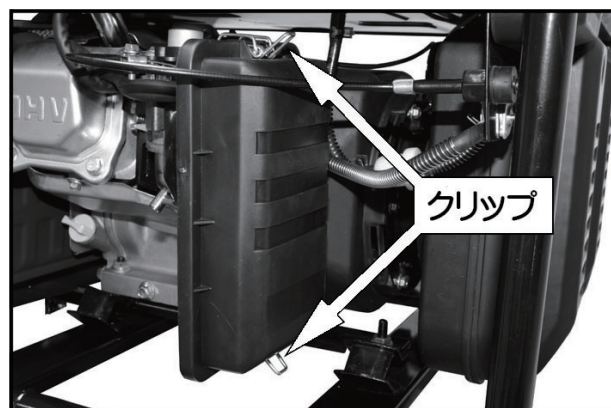


使用済みエンジンオイルに長時間触れないようにしてください。
使用済みエンジンオイルを扱った後は必ず手をよく洗ってください。

■エアフィルターの点検・清掃

⚠ エアフィルターが装着されていない状態で発電機を使用しないでください。
発電機が損傷する可能性があります。

1. エアフィルターカバーのクリップを外して取り外します。
2. エアフィルターエレメントを取り外します。
3. フィルターが破損していないか、汚れていないかを確認してください。
4. フィルターが破損している場合は、交換してください。
- 5-1. フィルターが汚れている場合は、中性洗剤を混ぜた溶液で洗い、十分にすすいでください。
- 5-2. フィルターを完全に乾かします。
- 5-3. フィルターが完全に乾いたら、綺麗なエンジンオイルに浸して、軽く絞って余分なオイルを取り除きます。
6. フィルターを元の位置に戻し、エアフィルターカバーを取り付けます。



⚠ フィルター扱う際は破らないように慎重に扱ってください。
破れてエンジンが不調になる場合があります。

⚠ 警告

エアフィルターの清掃には、引火性の溶剤やガソリンを使用しないでください。

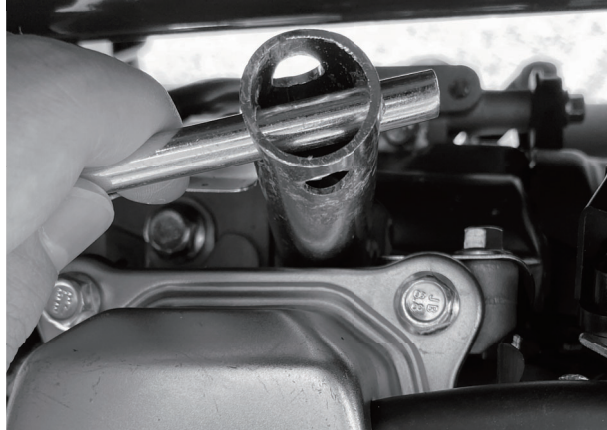
■スパークプラグ点検・交換 (推奨点火プラグ:NGK BPR7HS または同等品)

⚠ エンジンが冷えてからスパークプラグの取り外し作業を行ってください。

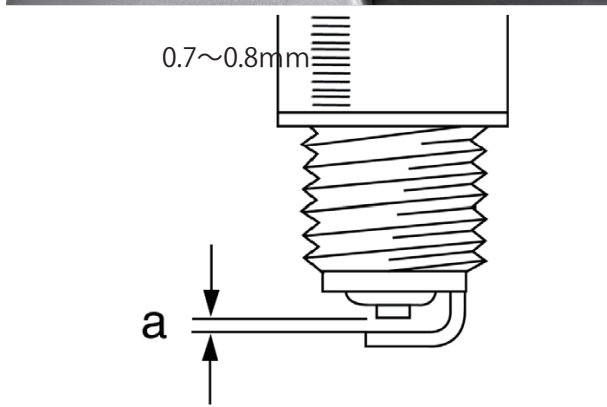
1. スパークプラグからスパークプラグキャップを外します。



2. 付属のスパークプラグレンチを使ってスパークプラグを取り外します。
3. 電極の周りにたまったカーボンを取り除きます。

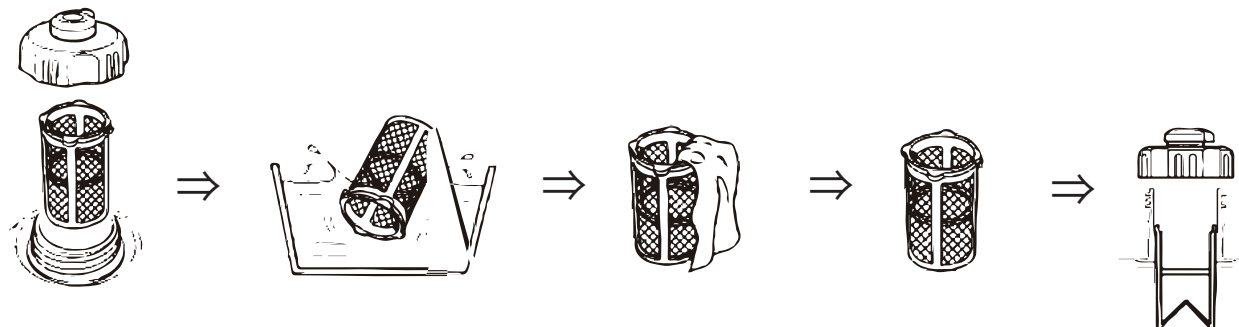


4. スパークプラグのギャップ (a)を確認し、
0.7～0.8mmである事を確認し、
必要に応じて調整します。
5. スパークプラグの全体的な確認をし、
腐食や穴が無いかを調べ、
必要に応じて交換をします。
6. スパークプラグのを再び取り付け、
スパークプラグキャップを交換します。



■燃料タンクフィルター点検

1. 燃料タンクのキャップとフィルターを取り外します。
2. フィルターをガソリンで掃除します。
3. フィルターを拭いて取り付けます。
4. 燃料タンクキャップを取り付けます。
燃料タンクキャップが確実に締め付けられていることを確認してください。



⚠ 警告

- ・絶対に火気が近くにある状態で作業をしないでください。
- ・発電機のエンジンが十分に冷えていることを確認してから作業をしてください。

故障対策

■エンジンが始動しない

- 燃料タンクにガソリンがない…………… ガソリンを供給してください。
- 燃料タンク …………… 燃料コックのつまみを「ON」にしてください。
- 燃料フィルターが詰まっている…………… 燃料フィルターを清掃してください。
- オイルレベルが低い…………… エンジンオイルを充填してください。
- スパークプラグが汚れている…………… スパークプラグを乾燥させ清掃してください。
- スパークプラグにカーボンが付着している…………… スパークプラグのカーボンを拭き取ってください。
- 電気機器が既に接続されている…………… 電気機器を外してから始動してください。
- 点火系統が不良…………… 販売店にご相談ください。
- エアフィルターが汚れている…………… エアフィルターの清掃をしてください。
- キャブレターが詰まっている…………… キャブレターを分解整備してください。

 キャブレターの調整には、専門知識が必要になります。調整が必要な場合は、販売店にご相談ください。

■エンジン出力が出ない

- 使用電気機器が故障している…………… 使用機器が正しく稼働するか確認してください。

■発電機が熱すぎる

- 過負荷状態になっている…………… 負荷を減らしてください。
- 換気不足…………… 発電機を通気性の良い場所に移動してください。

 対策方法を試しても症状が改善されない場合は、お買い求めの販売店までご連絡ください。

製品仕様

商品名	AQCESS インバーター発電機 AQ3300ig
定格周波数	50Hz/60Hz
定格電圧 (AC)	100V
定格電圧 (DC)	12V (Max 8A)
定格出力	3.1Kw(3100w)
絶縁等級	F級
使用環境条件	気温:-5~40℃ 湿度:50%以下 (気温40℃時) 高度:1000m以下
エンジン種類	単気筒 4 ストローク空冷式OHV
排気量	212cc
使用燃料	無鉛ガソリン
ガソリントank容量	13L
使用エンジンオイル	4 サイクルエンジンオイル (SE級以上)
エンジンオイル量	0.47L
始動方式	リコイルスターター
全長×全幅×全高	W520×D450×H480 mm
重量	35kg
連続運転時間	約8時間 (75%定格負荷運転・ガソリン13Lの場合)

付属品 スパークプラグレンチ×1 オイル給油用ファンネル×1
引掛3P変換アダプター×1 DC電源充電用コード×1

 本製品は、12ヶ月保証対象品です。下記の製品保証規定を参照してください。

■製品の特長

- ・ガソリンエンジン発電機です。交流100V、直流12Vを出力することができます。
- ・過負荷保護装置付きです。

 各使用機器の消費電力を確認の上能力以上の負荷を掛けないようご注意ください。

 本製品の定格出力は3.1Kw (3100w) です。

※ 使用電気機器と発電機の目安

発電機を使用する場合、多くの電気機器に表示されている消費電力以上の出力が必要となり、モーターを使用する電気機器では消費電力の4倍程度の電力が必要となります。

製品保証規定

- ※ 製品の保証期間は、ご購入後12ヶ月です。
- ※ 正常な使用状態にて故障した場合は、弊社の責任に於いて無償にて修理、交換させていただきます。
- ※ 本保証は、当該製品単体の保証を意味します。製品の故障及び損傷により発生する損害は、保証対象には含まれません。
- ※ 本保証は、日本国内においてのみ有効です。海外で発生した故障及び損傷に関しては、保証対象には含まれません。
- ※ 保証の可否は弊社が判定いたします。
- ※ ご購入日の確認ができない場合は、有償修理として受け付けさせていただきます。
- ※ 製品保証は弊社で販売した商品のみ有効です。
- ※ 二次的に発生する損失の補償及び次に該当する場合は保証対象には含まれません。
 - ・ 使用上の誤り、保守点検、保管等の義務を怠った為に発生した故障及び損傷。
 - ・ 製品の作動機構に悪影響を及ぼす変更（改造）を加え、それが原因で発生した故障及び損傷。
 - ・ 消耗品が損傷し、取り替えを要する場合。
 - ・ 地震・火災・風害その他天災地変等、外部に要因がある故障及び損傷。
 - ・ ご納入後の輸送や移動時の落下や衝撃による故障及び損傷。

廃棄について

本製品を廃棄する場合は、オイル、ガソリンを指定された容器に移し、お住まいの自治体のゴミ廃棄方法に従って、本体とオイル、ガソリンを処理してください。

所有者・使用者責任

所有者、及び使用者は当該商品を使用する前に、メーカーからの説明書（警告文）を良く読み、理解しなければなりません。発電機の構造、及び構成している部品等をよく理解し、十分な経験のある者が責任を持って当該商品を使用し作業を行うようにしてください。

警告事項は特に良く理解するようにしてください。

所有者、及び使用者は作業の上で、メーカーからの推奨事項を常に把握し、維持するように努めてください。

警告ラベル、説明書等については、必ずいつでも読む事が出来るよう保管をしてください。

使用上の注意

1. 使用中は安全のため、安全メガネ・安全手袋・防塵マスク・耳栓・作業着等の安全保護具を着用してください。
2. 使用する工具の説明書を良く読み、注意事項を守って作業してください。
3. 使用前に、各部に傷、損傷、錆等が無いか良く確認してください。
4. 定期的に各部の点検を行い、オイル交換やエレメントの清掃を行ってください。
5. 誤った使用方法により商品が破損、人体への損傷、物品等の損害が生じた場合、一切の保証、並びに責務は無効となります。

故障について

故障と思われる場合は、お手数ですが、お買い上げの販売店又は販売元までお問い合わせください。

日本アクセス株式会社

〒945-0855 新潟県柏崎市鯨波甲673-10

お客様サポートセンター 0254-41-5011

ACCESS[®]

日本アクセス株式会社